

「平成21年度全国学力・学習状況調査」の結果

1 「全国学力・学習状況調査」の概要

平成21年4月21日に、全国の小学校6学年・中学校3学年の全児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施

- ・ 本県では、調査対象となるすべての公立小学校840校、中学校382校、特別支援学校7校(小・中)が参加
(小6 約5万4300人、中3 約4万9000人 その他、国立と私立の小中学校も参加)
- ・ 国語と算数(数学)の調査の他、児童生徒及び学校への質問紙調査を実施

2 結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

本県の公立学校の結果は、正答数・正答率とも全国平均とほぼ同じ。また、児童生徒の正答数の分布も全国の状況とほぼ同じ。

教科区別調査結果 ()は全国(公立)

小学校	正答数	正答率(%)	中学校	正答数	正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	12.8 (12.6)	71.0 (69.9)	国語A(知識) <全33問>	25.3 (25.4)	76.8 (77.0)
国語B(活用) <全10問>	5.1 (5.1)	51.3 (50.5)	国語B(活用) <全11問>	8.2 (8.2)	74.6 (74.5)
算数A(知識) <全18問>	14.4 (14.2)	79.8 (78.7)	数学A(知識) <全33問>	20.3 (20.7)	61.6 (62.7)
算数B(活用) <全14問>	7.9 (7.7)	56.3 (54.8)	数学B(活用) <全15問>	8.5 (8.5)	56.7 (56.9)

<小学校>

国語について(以下 は多くの生徒ができている点, は課題のある点)

話し手の立場や意図をとらえて聞くこと。(話すこと・聞くこと)

目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すこと。(話すこと・聞くこと)

文章の内容に合わせて小見出しを書くこと。(書くこと)

漢字の読み書き。(言語事項)

自分の立場や意図を明確にして話し合うこと。(話すこと・聞くこと)

話の組み立てを工夫しながら、図を使って説明すること。(話すこと・聞くこと)

報告文に必要な事柄を整理したり、事象や意見などを関係付けながら書いたりすること。(書くこと)

主人公の行動や心情を描写した文章の表現の工夫をとらえること。(読むこと)

ローマ字を正しく読んだり書いたりすること。(言語事項)

接続語を使って一文を二文に分けて書くこと。(言語事項)

毛筆の下書きについて書き直す内容を説明すること。(言語事項)

算数について

整数，小数，分数の四則計算。(数と計算)

四捨五入して概数を求めること。(数と計算)

身近なものの長さについての感覚。(量と測定)

長方形や平行四辺形の性質。(図形)

数直線上の点の目盛りの読み方。(数と計算)

減法と除法の混合した整数の計算。(数量関係)

割合を百分率で表すことや，基準量と比較量の関係から表すこと。(数量関係)

情報を整理選択し，筋道を立てて考え，言葉・数・式を用いて表すこと。

(数と計算，数量関係)

< 中学校 >

国語について

効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること，話の内容から必要な情報を的確に聞き取ること。(話すこと・聞くこと)

詩の内容や構成，表現上の特徴などを踏まえて写真を選び，詩と関連付けて自分の考えを書くこと。(書くこと)

文学的な文章の内容を展開に即してとらえること，目次の特徴や役割を理解すること。(読むこと)

詩の中の語句に注意し，その効果的な使い方に気付くこと。(読むこと)

文章に即して漢字を正しく読むこと，辞書に書かれている情報を適切に読み取ること。(言語事項)

主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くこと。(書くこと)

資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること，文章から読み取った情報を簡潔にまとめて書くこと。(書くこと)

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むこと。(読むこと)

短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと。(読むこと)

説明的な文章と補助資料とのかかわりを理解すること。(読むこと)

文脈に即して漢字を正しく書くこと。(言語事項)

語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うこと。(言語事項)

数学について

単項式どうしの乗法の計算。(数と式)

円柱の展開図における，円周と側面の辺の長さとの関係。(図形)

三角形の合同であることの判断，対応する辺や角の関係。(図形)

問題場面における考察や，与えられた情報を分類整理すること。(数量関係)

等式を1つの文字について変形すること。(数と式)

図形を線対称か，点対称か判断すること。(図形)

図形の証明を提示された証明の方針に沿って記述すること。(図形)

二元一次方程式の表す解の集合を表すグラフが直線になること。(数量関係)

与えられた条件や事象から，結論を筋道立てて説明すること。(数量関係)

(2) 学習状況に関する調査結果 (以下, 全国平均との比較)

小中学校とも, 「読書好き」は, 全国より高い傾向が続いている。

小中学校とも, 国語の授業で学んだことが「将来役に立つ」と強く肯定する割合が年度を追うごとに低くなる傾向がある。

(3) 生活習慣に関する調査結果

早寝・早起きの割合が, 全国よりも高い。

新聞やテレビのニュースなどに関心がある児童生徒の割合が高い。

学習塾などで勉強している児童生徒の割合が高い。

中学校では, 学校に行く前に持ち物を確認する生徒の割合が低い。

携帯電話を使って通話やメールをしている児童生徒の割合が高い。

地域の行事に参加している児童生徒の割合が低い。

(4) 学校質問紙に関する調査結果

小学校では, 将来について考えさせる活動をしている学校の割合が高い。

インターネットなどを使った調べ学習をしている学校の割合が高い。

小中学校とも, P T A や地域の人が学校の諸活動に参加する割合が高く, 増加する傾向である。

朝の読書など一斉読書の時間を設け, 毎日行っている学校の割合が高い。

国語, 算数・数学の指導として, 家庭学習を促す傾向が低い。また, 家庭学習の課題の与え方について校内の教職員で共通理解をする割合が低い。

平成20年度全国学力・学習状況調査を活用した学校の割合が低い。

3 今後の対応

(1) 各学校では, 読書県『ちば』の気運を高めるために, 「朝の読書」や「読み聞かせ」, 「読書週間・月間の設定」などの取組を一層推進します。また, 各教科等を通して本を読む態度, 読書習慣を身につけさせるとともに, 学校図書館の充実を図る。

(2) 「ちばのやる気」学習ガイドの活用を通して, 基礎・基本の確実な習得を図るとともに, それ活用して, 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくみ, 主体的に学習に取り組む態度を養い, 学力向上に努める。

(3) 「思考し, 表現する力」を高める実践モデルプログラムの普及を図り, 教員の授業づくりの支援を行うことで, 学力向上に努める。

(4) 「家庭学習について考えよう」サイトなどの積極的な活用を通して, 学校, 保護者, 児童生徒の連携を図り, 学力向上に努める。